

19. 当院における多系統萎縮症患者の喉頭所見の変化について

¹⁾ 耳鼻咽喉・頭頸部外科学

²⁾ 睡眠医療センター

今井貫太¹⁾, 中島逸男^{1,2)}, 平林秀樹¹⁾, 春名眞一^{1,2)}

【目的】多系統萎縮症 (Multiple system atrophy; 以下 MSA) は, 臨床症状の優位性からパーキンソンズム型 (MSA-P) と小脳失調優位型 (MSA-C) に分類される。有病率は人口 10 万人あたりに 7-10 人と神経疾患では稀な疾患ではなく, 中年以降に発症する。病状の進行に伴い, 声門外転障害や floppy epiglottis をきたし, さらに両側声帯固定による高度な呼吸障害を呈す。したがって, 声門外転障害などの喉頭所見の早期発見が生命予後の改善につながる可能性がある。

今回我々はこれらの症例を呈示し, 多系統萎縮症における耳鼻咽喉科医の関わりについて検討した。

【方法】対象は 2006 年 1 月から 2018 年 12 月までに当科を受診し, MSA と診断された 31 例 (男性 17 例, 女性 14 例, 平均年齢 63.8±9.8 歳) に対し, 後方視的に喉頭所見や嚥下障害の有無を検討した。

【結果】男性は 50 歳台に多く, 女性は年齢とともに発症する傾向にあった。分類されていない MSA1 例を除き, MSA-C が 20 例, MSA-P が 10 例であった。初診時症状としては, MSA-C ではふらつきが多く, MSA-P では嗄声が半数を占めていた。また, 初診時喉頭所見としては, MSA-P では披裂部不随意運動を認めやすく, MSA-C では floppy epiglottis を認めやすい傾向にあった。病型での違いは認めなかったが, 平均して胃瘻造設にて 3 年 9 ヶ月, 気管切開では 1 年 4 カ月ほど MSA-P 例の方が MSA-C 例より早期に治療介入となっていた。なお, 気管切開術を施行した症例では全例声門開大不全に嚥下障害を伴っていた。

【考察・結論】初診時症状からの病型分類は困難であったが, MSA-C 例のいびき症状と floppy epiglottis, MSA-P 例の嗄声と披裂部不随意運動には疾患特異的な症状として関係が示唆された。また, 一般的に MSA-P は MSA-C と比べ臨床症状の経過が短いとされており, 当院においても MSA-P 例の方が病勢の進行が速いと示唆された。嚥下障害の進行は気管切開術を判断する指標になると考えられたが, 気管切開術は ADL の低下を伴い, 介護者の負担の増加が予想され, 耳鼻咽喉科医は治療法の選択に積極的に関与していくべきと考えた。

20. 当科における全身麻酔下予定手術における周術期口腔ケアの現状と全件介入への取り組み

¹⁾ 口腔外科学

²⁾ 佐野厚生総合病院 歯科口腔外科

小出雅代¹⁾, 大谷紗織¹⁾, 長谷川智則¹⁾, 谷 真志¹⁾, 泉さや香¹⁾, 藤田温志¹⁾, 和久井崇大^{1,2)}, 川又 均¹⁾

【目的】当科では 2007 年 7 月に口腔ケア外来を開設, 周術期口腔ケアを行ってきた。2017 年 7 月から病院の方針として, 全身麻酔手術症例に対して全件介入を開始, 依頼による全件介入を導入したが不十分であった。2019 年 7 月から入院サポート室, 外来化学療法室を中心にシステム化された全件介入を導入した。これまでの周術期口腔ケア症例数, 介入率の推移を検討し, 全身麻酔下予定手術における周術期口腔ケアの状況を評価した。

【方法】対象は 2007 年以降口腔ケア外来を受診した患者で, 特に 2016 年 7 月~2019 年 9 月の全身麻酔下予定手術前の口腔ケア依頼患者を詳細に検討した。検討項目は全身麻酔下予定手術症例数, 依頼患者数の推移, 依頼科別患者数, 全身麻酔下予定手術症例の口腔ケア介入率とした。

【結果】全身麻酔下予定手術症例は年間 5000 例程度で, 2019 年 7~9 月は 1404 例であった。依頼患者数は全件介入前 1 年間で 291 例, 依頼による全件介入後 1 年目が 1272 例, 2 年目が 1721 例, システム化による全件介入後 3 か月間で 843 例であった。依頼科別患者数は, 全件介入前は第二外科が半数以上占めていたが, 依頼による全件介入後より依頼科が増加, 手術件数の多い診療科が多くなった。全身麻酔下予定手術症例の口腔ケア介入率は, 全件介入前 1 年間は 10% 程度で推移, 依頼による全件介入後 1 年目で 30% 弱, 2 年目では 40% まで増加, システム化による全件介入後は, 70% 程度まで増加した。

【考察】近年周術期等における口腔ケアの重要性が強調され, 当院でも周術期口腔ケアの強化に取り組み, ケア外来紹介・予約システムの変更を行った。2019 年 7 月を周知期間とし, 8 月よりシステム化による全件介入を開始した。介入率は 70% 程度まで増加, 数字上ほぼ全件介入が達成できたと考える。

【結論】この結果をもとに周術期口腔ケアのアウトカムを明らかにしていきたい。